

経営学修士(MBA)コースで学ぶ4つの理由

多様な仲間と学ぶ

経営者、会社員、公務員、議員やセカンドキャリアを切り拓こうとしている方など、職業も年齢も異なる多様な社会人院生と一緒に研究に取り組みます。ともに学ぶことで培われた公私の人間関係は、修了後も有意義なつながりとなっています。

多様な教員と学ぶ

課題レポート(修士論文に相当)の作成にあたっては、指導教員や副指導教員はもちろん、経営学、経済学、法学やコミュニケーションなど多様な専門領域の教員が、報告会等を通じて院生の研究をサポートしています。

無理せず学ぶ(平日夜間・土曜日開講)

平日の夜間と土曜日に開講する科目を受講するだけで修了できるカリキュラムを提供しています。

じっくり学ぶ(長期履修制度)

通常は2年間で修了する課程を、学費は2年分のまま、最長4年間をかけて修了を目指す制度を備えています。

大学院生の声(授業改善アンケートより)

- 基本的な知識を幅広く学ぶことができた。
- 難しい理論の理解に挑戦することが大事だとわかった。
- 多様な視点から検討することの重要性を認識した。
- 先行研究、データ収集や整理の方法が身につくとともに的確なアドバイスが課題レポートの作成に役立っている。
- 教授や他の大学院生と交流することができた。



課題レポートの中間報告を終えてホッと一息の2年生



期末レポートの提出に向けて慌ただしく準備する1年生

経営学修士(MBA)コースの詳細や入学にかかるご相談などにつきましては、経済学研究科ホームページや問い合わせ窓口をご活用ください。



経済学研究科ホームページ

http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/g_school/

長崎大学大学院経済学研究科



経済学研究科に関するお問い合わせ

長崎大学人文社会科学域事務部
南地区事務課大学院係

〒850-8506 長崎市片淵4丁目2番1号

TEL: 095-820-6325 FAX: 095-820-6390

E-mail: ecgra@ml.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学大学院経済学研究科経営学修士(MBA)コースは「一般教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」です。

NAGASAKI UNIVERSITY
Graduate School of Economics
Master of Business Administration



体系的知識、応用力に基づく
実践的問題解決能力を有する
高度専門職業人の育成

経営学修士(MBA)コースのご案内

社会人修了生4名のお届けします。
皆さんとキャンパスで学ぶ日を在校生、
教員一同楽しみにしています。



長崎大学大学院
経済学研究科博士前期課程

経営学修士(MBA)コース

Master of Business Administration

MBAコースで学んだ日々



山下淳司さん(2010年度修了)

十八親和銀行地域振興部主任調査役
長崎大学大学院工学研究科非常勤講師
(FFG アントレプレナーシップセンター)

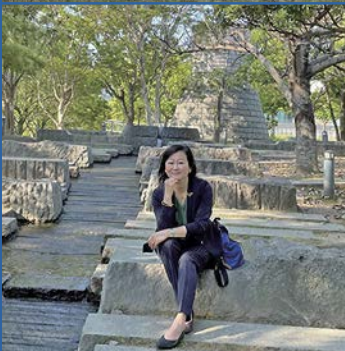
企業の経営者との接点が多い銀行員だからこそ身につけなければならない経営感覚や経営手法を論理的に学んだ日々



小川勇人さん(2013年度修了)

株式会社小川の家
代表取締役

現状打破を目的として、自らが創造構築してきたビジネスに関する「論理的な整理」と「これからどう生きるか」に関して、視野を広げ、視座を高めてもらった日々



百田成玉さん(2017年度修了)

長崎県文化振興課
主任主事

地域経営に関わる者として、「新時代における文化交流及び経済発展」のあり方を追求した2年間



本多則子さん(2018年度修了)

コミュニティ・フリーカフェ
のほほん亭 代表

*写真右は、同じくMBAコースを
2019年度に修了した北村貴寿さん

人と人のつながり、居場所の必要性とその根拠を探求した時間

MBAコースで学んだこと

企業と接する機会が多く実際に経営を行った経験がない銀行員が、真にその企業を理解し、経営者と対峙するために必要なのは、企業経営者の持つ経営感覚や経営手法を論理的に理解することであると考え、それを身に着けるためにMBAコースで学びました。

その結果、経営戦略やマーケティング等の授業、そして課題レポートの作成を通して、経営者が直面する企業経営の難しさや楽しさを論理的に理解できるようになったことに加えて、自分が働く銀行を経営者目線で客観的に俯瞰できるようになったのは大きな収穫でした。

事業承継者、経営者、一人のビジネスパーソンとして、危機を直視し、葛藤、決断して創造構築してきた価値判断基準が正しかったことを論理的に説明、整理できるようになった。

他方、視野狭窄であったことも自覚できた。すべての問題を解決できることはないが、問題の捉え方など、解決するための論理的なアプローチの一つを学ぶことができた。体系的な学びが応用力を身につける土台となる。学び続けることが習慣化した。

アメリカのビジネススクールのようなイノベーション講義では、チームワークを重視しつつ、一個人の特色を生かす能力を身に付けました。ゼミでは、厳しい指摘とアイデアを出し合う中で、思考力と柔軟な対応力を学びました。

また、自分が過去12年間取り組んできた県産品輸出を総括し、文化交流の新たな在り方を模索する中で理論と実践検証の良い機会にもなりました。

加えて、指導教員以外にも気軽にアドバイスをいただける環境、教員に恵まれました。

「人生100年時代」に「健康寿命」をいかに伸ばし、介護を必要とせず自立して暮らし、かつ孤立を防ぎ認知症予防を兼ねた生活のために、何が必要なのかを問い探求しました。なぜ既存の行政施策として設置されているサロン等は数居が高いと感じられるのかなどについて、ヒアリング調査や参与観察を実施しました。

そして、自分の様々な人生経験を社会貢献に生かすために構想したコミュニティカフェに、いつでも、だれでも、といった身近な、地域の誰もが利用しやすいおしゃべりの場、居場所として必要性が認められることを課題レポートで明らかにしました。

MBAコースの学びを踏まえた近況

現在、銀行でオープンイノベーションを軸にした地域振興を行っていますが、ともすれば自己中心的になりがちな地域振興を、論理的に俯瞰して見る力をMBAコースで養えたことで、多くのステークホルダーの関わりが肝となるオープンイノベーションでの地域振興策の創出や解決にとっても役立っています。

教員から一言

在学中、海外に赴任するなどの環境変化にも直面しましたが、メール等を用いて教員と議論するなどして、大きな問題もなく課題レポートを執筆されました。

課題レポートが生涯の自信になっている。地方の零細企業の経営者であっても対外的に舐められることがなくなる。社会の様々な事象や言説を鵜呑みにせず、原典を当たることが習慣化する。読書量も増え、俯瞰できるようになる。他方、頭でっかちになりやすく、すぐにリスクを勘定し、直感的な行動力が衰える。

教員から一言

MBAコースで一緒に学んだ仲間とのネットワークを活かして、企業経営や地域経済にかかる研究会を主宰されています。

研究結果を長崎県のアジア・国際戦略に活かし、日中共通の歴史ツール「隠元禪師と黄檗文化」をテーマに、事業資金の調達を含め官民一体となった黄檗文化交流を行っています。

また、シンポジウム開催、国内外の大学における講演、食文化の普及、様々な広報活動を行っていますが、これらを「自分の道」と信じて日々邁進しています。

教員から一言

本学の教養教育や多文化社会学部の講義も担当され、黄檗文化交流の継承にも努めていらっしゃいます。

学びは人の役に立ててこそ、その意味を発揮します。MBAで研究したことで、コミュニティカフェの必要性にかかる疑問や不安を払拭できました。2019年8月には、自宅のリビングを利用した家開きカフェをオープンしました。地域に根を張り、小規模で家庭的な雰囲気を持つ「つながりの居場所」として、地域・社会貢献を目指します。「夢をかたちに!」MBAコースで知的好奇心を増進させ、豊かな心を育ませていただきました。

教員から一言

大村市からの通学は大変だったと思いますが、MBAコースで構想したセカンドキャリアの事業計画をカタチにされました。